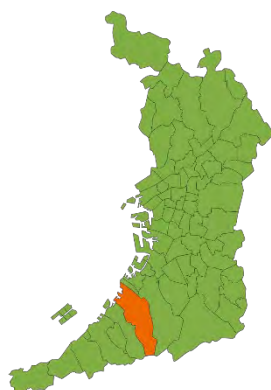


大阪府岸和田市

古民家活用を通して地域課題の解決策を考え、実践する。



【活動の基本情報】

参加学生数:8 名

(1 年生:2 名、2 年生:5 名、4 年生:1 名)

活動期間:2023 年 5 月～2025 年 1 月

担当教員:竹林浩志

1. 活動実施の経緯

前年度、岸和田市内畑町にある古民家の活用方法を考えるため、学生の発案により、地域の方々へのヒアリングが行われ、学生のアイデアによる古民家でのイベントも実施してきた。地域住民の方々へのヒアリングと主体的なイベント開催経験を踏まえて、今年度も内畑地域の魅力創出・情報発信をすることを目標に活動することになった。また、岸和田市山手を中心に古民家の活用から人のつながりや地域の賑わいを作れないかと考えている 20 代～50 代のメンバー(建築士、大工、古民家カフェ経営者、NPO 法人、行政職員、市民)の活動にも関わることも想定して活動を始めた。

2. 活動の内容

今年度は山手地区の古民家活用を中心に魅力創出・情報発信に取り組んだ。

また、図書館職員の方や岸和田古民家 Base(KKB)とも連携・協力して合同会議を行い、意見交換を行うなどして、実際に取り組みを行っている人たちと意見交換をして、実際に当該地域でのイベントを実施することや、地域の方向けのワークショップを開催するなどの地域の魅力創出活動などの様々な活動を行った。

3. 活動を通じて

色々な立場の様々な考えの方と実際に出会い、コミュニケーションをとることによって、地域での活動の実際、およびその難しさと楽しさと地域活動の重要さが以前より、より深く理解できたと考えられる。授業期間に活動することが多く、和歌山大学から現地まで若干の距離があるため、活動回数を増やすことが難しかったが、参加学生たちは個々に知見を増やし今後の様々な諸活動に活かしてくれるものと考えている。

4. 成果ポスター

岸和田LPP

和歌山大学観光学部

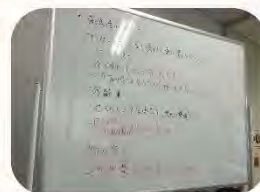
27151123 山崎莉奈 T2310015 掛江菜月
T2310034 佐橋亮 T2310043 大工千佳
T2310056 常吉大悟 T2310089 増井隆乃輔
T2410007 稲田絢 T2410030 國田知里

概要

今年度は岸和田市の山手地区の古民家活用を通じて魅力創出、情報発信に取り組んだ。
空き家対策を目的とした岸和田古眠家Base (KKB) とも協力、11月にはイベントを実施し、当該地区住民への自分たちの地域の魅力の再認識を促した。情報発信に関してはSNSに力を入れ、活動の輪を広げるためにイベント前の告知等をInstagramにおいて行った。

普段の活動

11月のイベント開催に向けて、学生主体の会議をおこなった。また、図書館職員の方やKKBの方など巻き込んだ合同会議にも参加することで、直接地域の方との意見交流の機会をつくることができた。そこで得られた意見をもとにして、イベントに必要なものは何か、またどのようにしてイベントを成功させるか話合った。そのほか、現地活動を取り入れた。地域の実態や必要としているものを知るきっかけができた。



イベントの内容

11月9日に山直上(やまだいかみ) 地区でスタンプラリーを開催した。井坂酒造、積川神社、猿とモルターレ、田舎育ち本舗、大工さんの倉庫をチェックポイントに設定した。地域の方と竹笛のワークショップや施設見学を通して交流することができた。イベントには約20名が参加した。参加者アンケートを実施しどういった方が参加しているのか知ることができた。



今後について

本LPPは今年度もち一端の区切りとなる。
しかし中止となった古民家移住体験イベントが今年3月に開催される予定である。
実際に参加しイベントで得られた力を生かして運営に参画していく。



LPPのInstagram



KISHIWADA_KOMINKA_LPP

2024年度和歌山大学観光学部LPP合同報告会



4. 2024 年度合同活動報告会の実施

2) 発表の実施報告

本会では、各報告時間に2プログラムずつ、別のエリアで発表を行った。当日の振り返りと報告のため、後日、各プログラムの発表の様子や、アンケートフォームで回収したご意見・ご質問に対する回答をまとめた報告書を参加学生が作成した。

大阪府岸和田市

テーマ: 古民家活用を通して地域課題の解決策を考え、実践する。

●報告について

報告会では岸和田市山手地区で行った取り組みを中心に今年度の活動内容について発表した。スタンプラリーイベント当日の竹笛の演奏や参加者アンケートの集計から作成したグラフを使用して現状について整理した。協働先である岸和田市立図書館、岸和田古眠家 Base の方々にもご来場いただき発表を聞いていただくことができた。

●質疑応答

Q.スタンプラリーイベントについて広報はどのように行ったのか。

A. 今回のイベントは地域外よりも地域住民に向けて古民家活用を行っているという周知を進め、活動を理解してもらうことを目的としていた。Instagram での情報発信以外では紙媒体としてチラシを作成した。図書館やスタンプラリーのチェックポイントとなった場所に置いてもらったり町から許可を得て回覧板で回してもらったりして地域内で広報活動を進めることができた。

Q. Instagram の活用に関してどのような投稿をしているか。フォロワー数は何人でいつ頃から始めたか。

A. 昨年度(2023 年 5 月 21 日)よりアカウントを開設したが、投稿等の運用を開始したのは今年度から。フォロワー数は 101 名(1 月 31 日時点)。投稿内容はスタンプラリーのチェックポイントである場所について紹介し、イベント当日までカウントダウン形式で投稿した。ハッシュタグはイベント内容に関連するワードの中から投稿件数が多いものなどを分析し、分析結果をもとに使用するワードを決定した。